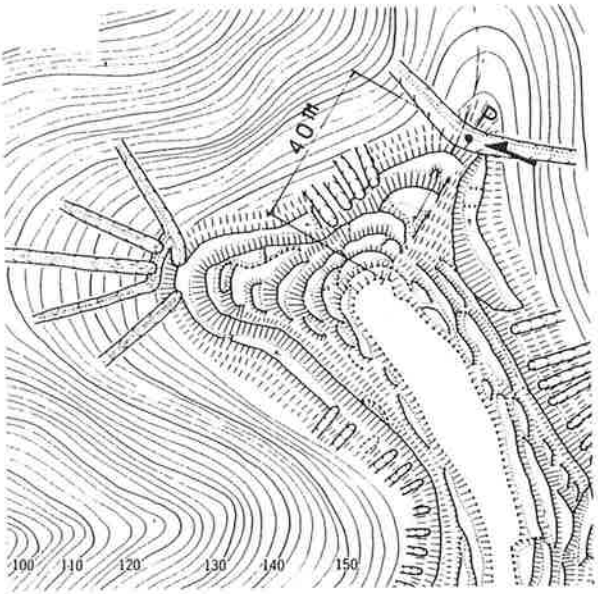
参考または引用した文献
大分地名大辞典　角川書店
郷土歴史大事典　大分県の地名　平凡社
豊後国荘園公領史料集成六　別府大学附属図書館
豊後国志　文献出版社



表紙解説

写真は小田山城址(本文P1「小田山城について」小野英治会員)に残る堀切(空堀)を、矢印の方向から撮影したものであるが、これにより四百年後の今日でも当時の様子を偲ぶことができる。今は天端幅が四・五米で深さは人の背丈位しかないが、築城当時はもう少し大きい三角形か逆台形の断面ではなかったろうか。

そこで暫し戦国の昔に思いを馳せ、此処を拠点として攻めたと考えた場合、この堀切を越えることは容易ではなかったろう。何故ならば、この堀切から砦の主郭部までなお四〇㍍もあり、高低差は一〇㍍にも達する。その間には柵や逆茂木を結った曲輪や武者走りが五段もあり、城方から見れば弓矢の殺生力が最も強い射程距離以内である上、高所から射掛けられるという優れた地形だからである。一方、寄せ手方としては堀切の向かい側が切岸(急斜面)となっているため、そこを突破することは並大抵ではなく、遮二無二突き進んでも屍を築く結果となりかねない。となると攻め口を変えざるを得ないが攻略は難しい。

なお、今は全山杉や雑木で覆われているが、城は本来合戦に於て勝利を得るために築くものであるから、周囲の展望がきくように裸山としていたが、或いは低木のみ残していたかのどちらかであったろう。

(この項歴史群像参照)

解説　林　寅喜